

特定健診・特定保健指導に関する事例発表

向日市健康福祉部健康推進課

向日市の紹介

- ・昭和47年10月、京都府内9番目の都市として市制を施行。
(平成24年40周年を迎えた)
- ・面積 7.68km²
- ・人口 約5万4千人
- ・三方を京都市に囲まれた、交通の便に恵まれている、ベッドタウン。
- ・「乙訓のたけのこ」「けんがい菊」「ポインセチア」「なす」
- ・奈良時代の10年間「長岡京」として都が置かれていた。
- ・三者協定を締結

平成24年10月京都府立医科大学、オムロンヘルスケア(株)、向日市健康講演会や健康ウォーキングを実施

国民健康保険の加入状況

平成24年4月1日現在	男性	女性	計
総人口	26,316	28,175	54,491
国保被保険者数(人)	6,477	7,237	13,714
国保加入率(%)	24.6	25.7	25.2
40～74歳人口(人)	12,447	13,311	25,758
被保険者数 (40～74歳)	4,571 (36.7%)	5,490 (41.2%)	10,661 (39.1%)

特定健診の実施方法

(1) 健康診査の形態

- ・乙訓の実施医療機関で行う「医療機関方式」
乙訓医師会と京都府医師会に委託
平成24年度は向日市、長岡京市及び大山崎町の69医療機関
- ・指定医療機関で行う「人間ドック方式」
9医療機関に委託

(2) 健康診査の内容

〈国が定めた基本項目〉

- ・質問票、身体計測(身長、体重、BMI、腹囲)、理学的検査(診察)、血圧測定
- ・血液検査 脂質検査(中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール)
血糖検査(空腹時血糖)、肝機能検査(GOT、GPT、 γ -GTP)
- ・検尿(尿糖、尿蛋白)、

〈追加項目〉 血清クレアチニンと血清尿酸

〈その他〉 HbA1cは全員

一定基準により医師判断で実施するもの
(貧血検査や心電図検査)

(3) 健康診査期間

7～10月の約4か月間

(4)健康診査の対象者

- ・向日市国民健康保険の被保険者で当該年度中に40～74歳になる人
(受診券セットを個別に送付)
 - ・特定健康診査と75歳以上を対象とする「長寿(後期高齢者)健康診査」
の狭間の年齢で、どちらの健康診査対象にもならない人
(どちらかの健康診査を受診できる)
- 5月1日以降の国民健康保険加入者について
(チラシ等で「健康増進法による健康診査」を案内)

国民健康保険加入者が、年1回健康診査を受けることができるよう、
体制を整備してきました。

(5) 健康診査の費用

自己負担額は1,000円、
市民税非課税世帯の人と70歳以上の人は無料

(6) 健康診査受診率向上のために行ったこと

① 健康診査について、広く市民に知ってもらうための取組み

・市の広報やホームページ

(前年度の受診結果のまとめや、特徴的な傾向なども併せて掲載) 健康診査の必要性を理解してもらうよう工夫

・「健康づくり年間予定表」の配布

・医療機関や関係機関などでのポスター掲示

・国民健康保険料納付書に健康診査リーフレットを同封

② 健康診査対象者に対する取組み

・健康診査通知の封筒に健康診査案内であることを明記し、毎年同じ色の封筒で、受診券セットを個別通知

(7) その他受診率向上の為に

・がん検診と同時実施

「大腸がん検診」「前立腺がん検診」「肝炎ウイルス検診」

・「30歳代の健康診査」

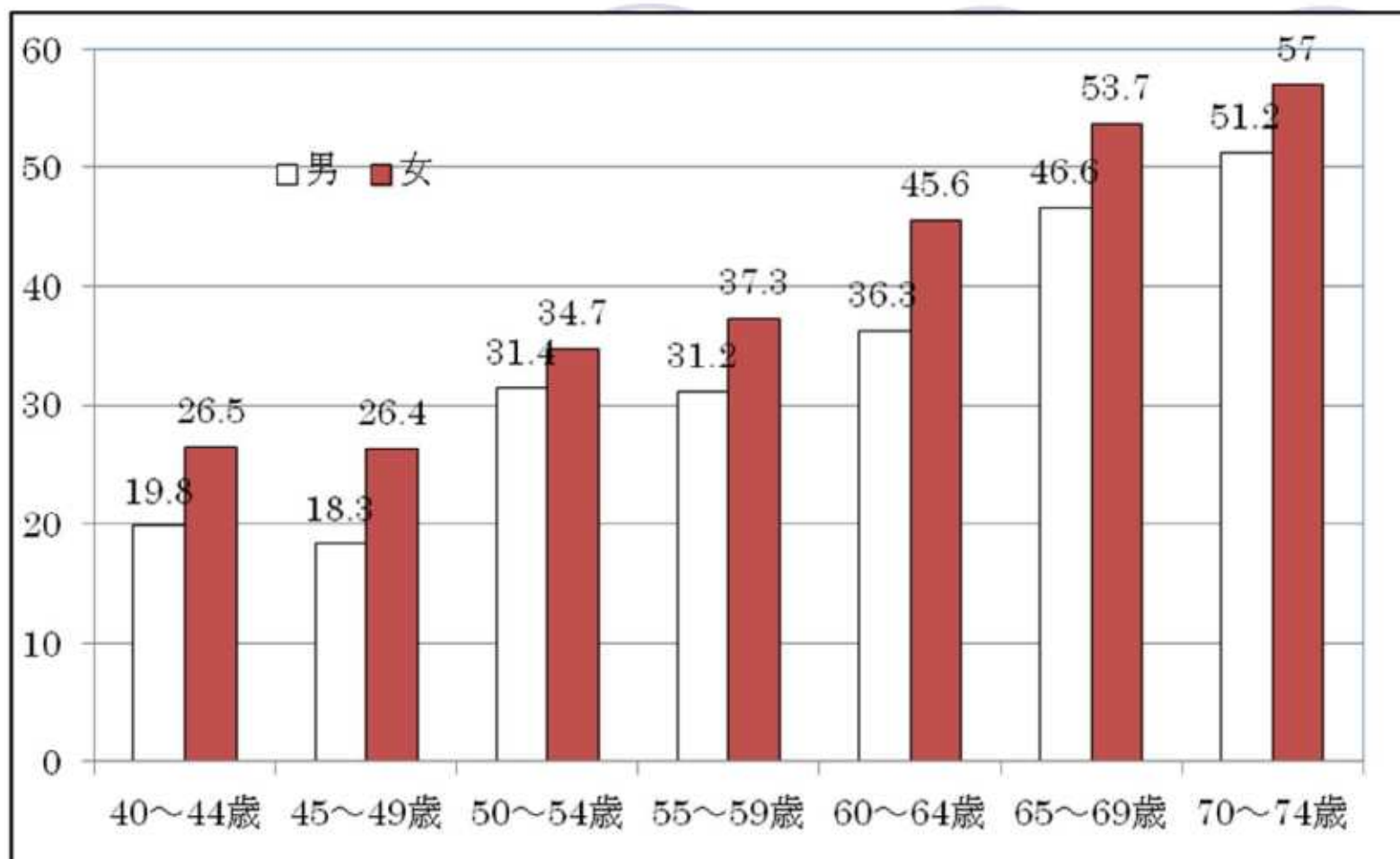
受診勧奨の方法

年 度	内 容	備 考
H20年度 (2008年度)	40歳と50歳の人に、健康診査案内の訪問を行う。	306人に訪問。うち本人または家族に面談したのは112人。
H21年度 (2009年度)	前年度特定保健指導利用者に評価アンケートを送付し、健康診査の受診勧奨を行う。また、継続支援教室を実施する。(以降毎年実施)	
H22年度 2010年度)	前年度特定保健指導利用者に、経過伺いを兼ねて受診勧奨訪問を行う。	訪問実人員39人
H23年度 (2011年度)	受診勧奨訪問 ①平成19(2007)年度受診者のうち翌年以降受診していない50歳の人 ②平成22(2010)年度に初めて健康診査を受けた人。	①67人訪問。うち面談したのは37人。②71人訪問。うち面談したのは34人。
H24年度 (2012年度)	9月中旬時点での未受診者(40歳、45歳、50歳、55歳、60～65歳)に、はがきで再通知を行う。	対象： 2,414人

特定健診受診率

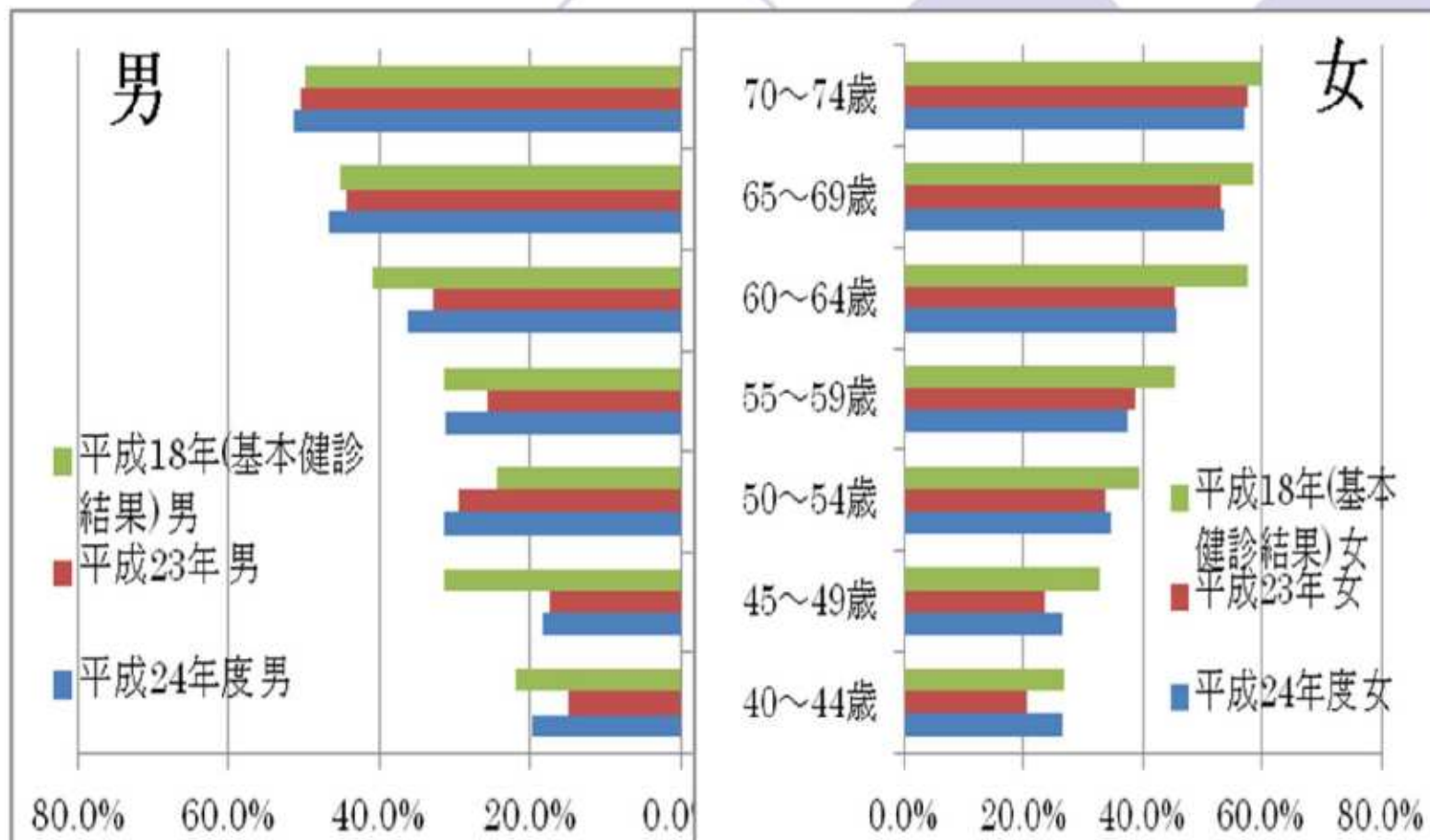
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
対象者数 (人)	8,944	9,015	9,089	9,230	9,289
受診者数 (人)	3,800	3,777	3,775	3,960	4,120
受診率 (%)	42.5%	41.9%	41.5%	42.9%	44.4%
人間ドック 受診者数 (人) 再掲	210	334	309	363	396

H24年度 特定健康診査 年代別受診率



24年度の取り組みの結果

9月中旬時点での未受診者（40歳、45歳、50歳、55歳、60～65歳）に、はがきで再通知を行う。



特定健診の課題

〈受診者の傾向〉

特定健康診査を初めて受診する7%

毎年受診している人は、20%

健康診査を一度も受診していない人は、対象者の約半数

年代別受診率、若い年代ほど受診率が低い傾向

どの年代においても男性の受診率が低い

〈課題〉

毎年受診しない人への働きかけ(毎年受診の必要性について)

一度も受診したことのない人への働きかけ

若い時から受けることへの必要性

特定保健指導

(1)特定保健指導の実施方法

市の直営方式(保健師、管理栄養士や看護師)
費用 無料
集団指導と個別指導、家庭訪問指導

(2) 特定保健指導実施率向上のために行ったこと

- ①保健指導対象者には個別通知を実施
- ② 集団指導について、年度毎に実施方法を工夫
経過教室の開催
- ③人間ドック受診者の保健指導の実施
- ④「特定保健指導や結果相談会についての案内チラシ」を
作成し、健康診査実施医療機関の協力により、チラシの配
布や呼びかけ

特定保健指導実施率向上の為の取り組み

	実施方法
H20年度 (2008年度)	対象者に集団指導を実施。必要に応じて継続教室を実施 (1又は2回シリーズを9クール)
H21年度 (2009年度)	対象者に集団指導を実施。(3回シリーズで4クール実施) 人間ドック受診者の集団指導を開始。(2回シリーズで2クール実施)
H22年度 (2010年度)	対象者に集団指導を実施。合わせて対象者の希望により、食事、 運動などテーマを選べる集団指導を実施。 (3回シリーズの教室を2クール) 人間ドック受診者の集団指導を2回シリーズで2クール実施。
H23年度 (2011年度)	対象者に集団指導を実施。(3回シリーズで4クール) あわせて試食や個別指導を実施。 人間ドック受診者の集団を実施。(2回シリーズで2クール) 個別相談日を設定し、予約制で個別指導を実施。
H24年度 (2012年度)	前年度の方法に加えて、ゆめパレアむこう(健康増進センター・市民 温水プール)を利用した運動体験を実施。

特定保健指導実施率

		H20年度 (2008年度)	H21年度 (2009年度)	H22年度 (2010年度)	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)
積極的 支援	対象者(人)	117	90	106	117	113
	服薬のため除外 された者(人)	141	136	158	173	164
	利用者(人)	19	5	11	14	11
	終了者(人)	6	4	8	12	5
	終了率(%)	5.1	4.4	7.5	10.3	4.4
動機 付け 支援	対象者(人)	395	331	300	332	324
	服薬のため除外 された者(人)	621	631	629	715	697
	利用者(人)	98	49	43	79	75
	終了者(人)	68	48	43	79	74
	終了率(%)	17.2	14.5	14.3	23.8	22.8

特定保健指導の現状と課題

- 特定保健指導を終了した人は、対象者の約2割。
積極的支援は、若い年齢層の人に回数多く実施することが求められるため、なかなか利用に結びつかない状況
- 特定保健指導の利用者の状況
翌年、健診結果が改善した人は、25%前後
利用者の身体の状態を見ると、特定保健指導対象者であっても、検査値が改善してる人も多い
- 高血圧症、脂質異常症や糖尿病に関する服薬をしているために保健指導の対象とならない人は年々増加し、平成24 (2011)年度には888人 (受診者の22.4%)
- 特定保健指導対象にならない、ハイリスク者への保健指導
(医療費削減の対策)

特定保健指導の対象とならない人への取り組み

①健康診査結果相談会の開催

4か月間にわたって6～7回実施

②ヘルスセミナー栄養講座の開催

毎年高血圧、高コレステロールや高血糖などのテーマを設定し実施

③30歳代の健診結果相談会

3～5日間実施

・初めの受診者全員に、面接にて結果を返却(継続受診者は郵送)

最後に

特定健診・特定保健指導の受診率を上げるために

○健診を一度も受けたことのない人には

健診を受けてもらえる環境を整える

- ・通知文や封筒を工夫し、健診の案内であることを明確にし、対象者全員に個別通知を実施。
- ・広報やポスターなどで、受診勧奨を実施
- ・大腸がん、前立腺がん検診などの同時実施

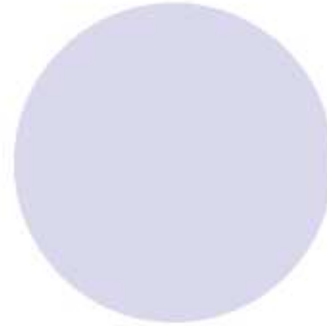
○特定検診を、受けた方は

自分の身体に関心をもってもらう取り組み

- ・定期的に健診を受けることの必要性
- ・健診を受けただけで終わらせず、結果を活用した健康づくり
- ・必要に応じて生活習慣の見直し



たけのんとなすりん



かぐほちゃん

ご静聴ありがとうございました。